

内閣総理大臣賞(1件)

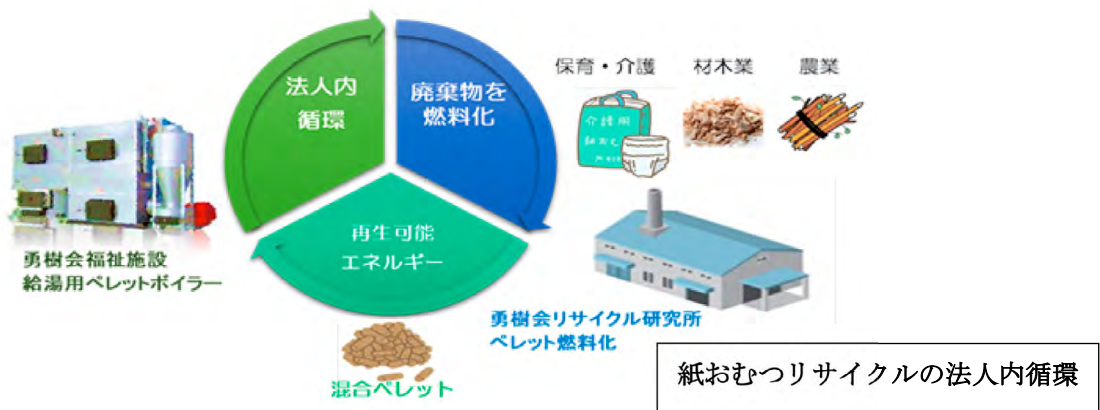
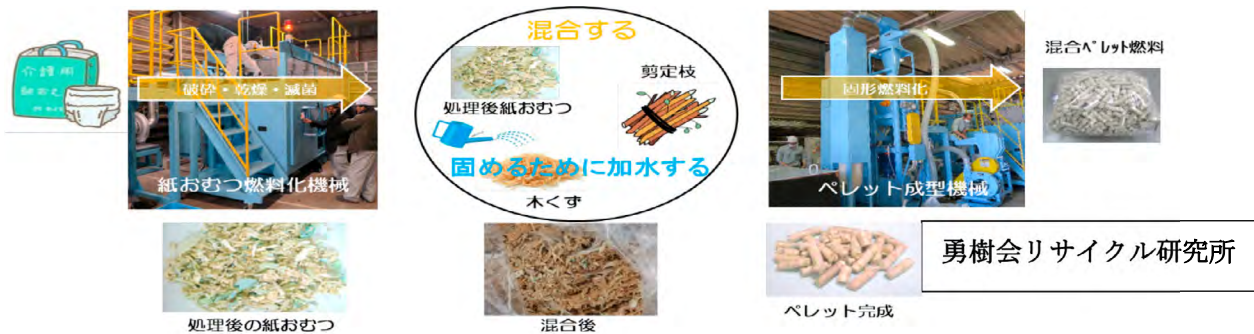
内閣総理大臣賞 <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名 社会福祉法人勇樹会
	取組の実践場所 新潟県新潟市
	受賞テーマ 使用済み紙おむつの再資源化を通じて地域における廃棄物の削減と再資源化に携わっています

受賞者は、運営する施設から発生する使用済み紙おむつを再資源化してペレット燃料を製造し、施設に設置している給湯用ボイラーの燃料として利用している。一つの法人内で、再資源化から利用までの一連の処理を実現しているのは、全国で唯一の取り組みであると思われる。

使用済み紙おむつは水分を含んで重く、使用前の約3倍も重くなっている。このため、一般的な廃棄物より運搬・焼却時の労力、コスト、排出されるCO₂量が多くなる。一方で、乳幼児だけでなく、高齢化社会に伴った大人用紙おむつの需要が増え続ける中、紙おむつの再資源化は今後必要不可欠であると考えている。

このような中で、同法人では、社会貢献の観点から「勇樹会リサイクル研究所」を設置し、運営する施設から発生する使用済み紙おむつの再資源化に自ら取り組んできた。実験を重ねて改良し、これまでに約110tの使用済み紙おむつを再資源化し、廃棄物の削減及び環境負荷の低減に携わっている。

また、地域の事業者から、従来処分されていた木くずや剪定枝を受け入れ、使用済み紙おむつに混合してペレット燃料に再資源化するなど、地域の廃棄物削減や課題の同時解決にも取り組んでいる。



同法人のこれまでの取り組みは次のとおりである。

平成28年（2016年）

- ・新潟市東処理センター内の空き施設を紙おむつリサイクル施設に改修し、紙おむつリサイクル機械及びペレット製造機・ペレットボイラーの試運転を開始する
- ・平成28年度使用済み紙おむつ燃料化実証実験と共に紙おむつリサイクルを開始する

平成29年（2017年）

- ・平成29年度使用済み紙おむつ・木くず混合燃料化実証実験を新潟大学と共同で実施する
（平成29年度地域循環圏・エコタウン低炭素化促進事業 環境省）
- ・木くずのリサイクルを開始する
- ・新潟市南区と果樹剪定枝の有効利用について意見交換を行う
- ・「使用済み紙おむつの再資源化を考えるシンポジウム」を新潟市と佐渡市で開催
（主催：勇樹会、共催：一般社団法人NIPPON紙おむつリサイクル推進協会、
後援：環境省関東地方環境事務所・新潟市・佐渡市）

平成30年（2018年）

- ・十日町市からの依頼で紙おむつと木くずのペレット成型実験を実施
- ・十日町市の要請で十日町市環境部と使用済み紙おむつ燃料化事業についての意見交換を行う

令和元年（2019年）

- ・新潟みらい農業協同組合及び新潟大学と共同研究契約を締結して「果樹剪定枝・紙おむつ・木くず」から製造する混合ペレットによる熱利用の実証実験を実施する
（令和元年度新潟県新エネルギー産業参入・育成促進事業補助金 新潟県）
- ・果樹剪定枝の混合を開始する

令和2年（2020年）

- ・使用済み紙おむつ燃料化事業の事業化に向けた混合ペレットボイラーの開発と事業化レベルの長期間の燃焼実験を実施する
（令和2年度新潟県新エネルギー産業参入・育成促進事業補助金 新潟県）

令和3年（2021年）

- ・令和3年度 新潟県再生可能エネルギー設備導入促進事業補助金を利用してバイオマスペレットボイラーを特別養護老人ホーム「柳都の杜」に設置する
- ・使用済み紙おむつと木くず（季節により剪定枝も混合）を混合して製造したペレットを、給湯用ボイラーの燃料として利用することを開始する



今後は、佐渡市にて紙おむつリサイクルを実現するため、令和6年、佐渡市に建設する同法人の特別養護老人ホームの給湯用ボイラーとして、紙おむつペレットボイラーを設置する予定である。